

英語

出題の傾向

今年もこれまでと同様の出題方針を取っており、長文の問題・文の書き換えの問題・整序の問題・会話の問題・語いの問題・空所補充の問題・アクセントの問題・発音の問題・英作文の問題を出題しました。出題範囲も例年通り、既習内容が多く、教科書やワークブックに載っている単語・熟語・構文を身につけておけば、多くの問題に対応できます。

2024 今年度の出題と解説

① 長文の問題

本文内容の一致、英問英答、そして指示語の問題を出しました。今年度はスピーチや会話を通してオンラインの利便性と手作りの暖かみに関する内容を出題しました。

問1 本文の内容一致問題です。全体的な正答率は悪くなく、大まかな英文は読み取れていたように思います。c「Shihoは大好きな漫画をすべてオンラインで読んでいる。」について、本文中にはオンラインで読む、と書かれています。その直後に、but for my favorite ones, I bought a complete series of comic booksとあり、お気に入りの本は全巻買ったとあります。このように「すべて・まったく～ない」のような記述には気を付けましょう。内容一致の問題は本文中から正確に読み取ることが大事です。

問2 英問英答の問題です。本文中より解答のポイントになるキーワードを探してくることはできていたのですが、そのまま本文から抜き出している答案が多く見られました。例えば、(4)How often does Dylan's grandmother write to him?という質問に対して、She has been writing to me once a month.と答える解答がありました。この解答は本文をそのまま抜き出したものです。問題文は現在時制で書かれているため、She writes to him once a month.とするのが正しい答えとなります。英問英答の問題では本文の英文を利用して、解答に合う形に書き換えることが大切です。また、全体的に時制や人称を間違えて書く答案が多くあり、答えのポイントは分かっているのに減点されている惜しい答案も多く見られました。

問3 本文中の語が示す具体的な内容を日本語で答える問題です。(2)thatが指す内容では「電子書籍を読むこと」とする答案が多く見られました。ここでは指示語の直前にあるWe can do various things onlineを使い、「オンラインで様々なことができること」とするのが正しい解答です。「電子書籍を読むこと」はオンラインでできる具体例を挙

げたものになります。

会話文では、誰がどのような発言をしているのか、そしてどのような状況での会話かを理解することが大切です。途中で場面が変わることもあるので、英文を見て状況を把握しておきましょう。今年度も下線部和訳の問題を出題しませんでした。文章全体の流れをきちんと把握することが大切です。

② 文の書き換えの問題

(1)は文末の感嘆符を見て、感嘆文だと気付くことができたのではないのでしょうか。What the～!とする惜しい解答も見られました。(2)はdoesn'tではなくdon'tやisn'tとする解答が多く見られました。また、necessaryとneedやhave toとの関連があまり理解できていなかったようにも思います。文の書き換えの問題に関する正答率は全体的に非常に悪く、文法が苦手な受験生が多かったように思います。この形式の問題はワークや問題集によく掲載されているので、繰り返し練習することが大切です。

③ 整序の問題

今年度も与えられた語句をすべて使用せずに書く答案がありました。また、並べることができているのに、写し間違えたために減点された答案も多くあります。応用的な問題を理解しているにもかかわらず上記のようなケアレスミスで減点されてしまい、非常に勿体なく感じました。(3)～(5)は比較的できていました。(1)ではinvitingの直後にto meを置く解答が目立ちました。Thank you for inviting meなどは英会話でもよく出てくる内容ですので、何度も音読をして慣れていきましょう。(2)はtoo・・・to～の構文ができていても、for + 人の位置を間違えている答案が多くありました。整序問題では、問われている文法を考え、語を並べていきます。教科書や問題集に載っている基本的な例文を暗唱して、使えるようにしておくことが大切です。

④ 会話の問題

会話文はどの問題も正答率が高く、解きやすかったように思います。(2)の問題は最初の「このバスは日の出公園へ行きますか?」という文章を見て、エ「私たちの街にはたくさんバスがあります。」という解答を選ぶ受験生が見られました。会話問題では空所の直前と直後から答えを導く必要があります。会話文全体を読み、答えを選ぶようにしましょう。

⑤ 語いの問題

語いの定義が英語で示されています。(1)(2)の月と曜日はほぼ毎年出題していますので、確実に書けるようにしておきましょう。(1)のOctoberはOctorberや、Octobarなどの綴り間違いをしている解答が見られました。月と曜日は確実に書けるようにしましょう。また、身近な語いの中でも綴り間違いしやすい単語は出題される可能性が高いので、丁寧に覚えておきましょう。

⑥ 空所補充の問題

教科書レベルの文法力を試す問題です。(3)(4)は9割近くの受験生が正解しており、仮定法や熟語の音読練習の成果が出ているように思いました。一方で(2)(5)のように、文法的知識に関する問題は極端に正答率が下がっていました。特に(5)では関係代名詞に関する問題と気付き、thatなどの関係詞が必要であると思い込んだため、間違った選択肢を選んだ受験生が多かったように思います。音読練習とともに正確な文法的知識も身につけていきましょう。

⑦ ⑧ アクセント・発音の問題

アクセントと発音の問題は日頃から英文を読む習慣がついている受験生が多いためか、全体的に正答率が高く出ていました。この種の問題への対応は普段の音読が重要です。発音をきちんと覚えることで、リスニングの力も養えるので、日々丁寧に音読をしていきましょう。

⑨ 英作文の問題

例年通りの条件付きの英作文を出題しました。今年度は「相手に10年前にどこに住んでいたかを尋ねる場合」を問いました。whereを使わずにwhenやその他の疑問詞を使用している解答など、基本的な疑問詞が使えないものが見られました。また、時制間違いやten years agoに前置詞inを付けている解答もありました。教科書の基本例文は暗記し、書けるようにしておきましょう。

対策と アドバイス

応用問題も少し見られますが、全体的には学校で使用する教科書や問題集の範囲を大きく逸脱することはありません。基本的レベルの問題を中心に勉強しておけば十分に合格点を取ることができます。定期考査や実力問題を復習し、授業中に出てきた単語、熟語、文法はその都度使えるようにしておきましょう。また、英語を書く練習が不足していると思われる答案が目立ちます。基本的な綴りは確実にかけるようにすること、そして、教科書や問題集の英問英答問題に答えられるように練習していきましょう。本校の過去問を解いて出題傾向を理解することも大切です。最後に、音読をする習慣を身につけておきましょう。一つ一つ丁寧に音読し、書いて覚える勉強法を実践してください。